25. 悪性腫瘍の経過観察における肝スキャンとCEAの利用

○多田　明　油野　民雄
利波　紀久　久田　欣一
（金大・核）

われわれは，ロッシュ社製 CEA キットを用いて，すでに1200検体について測定を行なった．

CEA 測定の意味が"癌の診断"から経過観察の指標に変わってきたが，今回は，肝転移の有無と，肝内欠損の経過観察の目的で2回以上 CEA 測定と肝スキャンを行なった32例について報告する．

核医学外来での初診時の肝スキャンと，CEA 値をくらべてみると，CEA 値が 20 ng/m*l* 以上を示し，肝スキャン正常と判定されたものが4例あった．内3例については，手術所見にて肝転移陰性であった．しかし4例全例が1カ月から1年後には肝転移を来たし，肝スキャンにて欠損を認めた．

CEA 値の変化と肝スキャンの変化の組み合わせで9つの subgroup を作った．32例中22例で，CEA と肝スキャンの変化が一致した．CEA が上昇したが，肝スキャンにて欠損の縮小を認めた胃癌の1例と，CEA 値が低下したとのに，肝スキャンでは multiple defect を呈した胃癌の1例があった．

また，MMC 動注などによる治療に反応を示した転移性肝癌で，CEA 低下と肝スキャンでの改善を認めた例が2例あった．

手術前に CEA が高値を示す場合には，術中所見で肝転移陰性であっても将来，肝転移をおこす可能性が大きい．

CEA 値の変化は，治療効果とよく相関したが，原発性肝癌や一部転移性肝癌で解離所見を認めた．

26. 骨シンチ用製剤 MDP の使用経験

仙田　宏平　今枝　孟義
浅田　修市　加藤　敏光
土井　偉誉
（岐大・放）

^{99m}Tc-MDP (Methylene Diphosphonic Acid) を入手する機会を得たので，若干の基礎的ならびに臨床的検討を行い，その有用性を検討した．

^{99m}Tc-MDP は，科研より提供された調製用キットを用い，従来の ^{99m}Tc-リン酸化合物と同様に one step で調製し，その 10～20 mCi を小児1例を含む14例の患者に静注した．静注後3時間に，シンチカメラを用い全身骨格のシンチグラムを撮像した．これら患者の内2例については，比較的短期間で，^{99m}Tc-EHDP による骨シンチグラフィーを施行した．一方，^{99m}Tc-MDP を使用した10例と ^{99m}Tc-EHDP を使用した5例について，静注後5分，10分および3時間の血中放射能濃度を測定した．また，^{99m}Tc-MDP の放射化学的純度および安定性を，85%メタノールを用いたペーパークロマトグラフィーによって調べた．

その結果，以下に述べるごとき成績を得た．1. ^{99m}Tc-MDP の放射化学的純度および安定性は十分に満足できた．2. 本剤の血中クリアランスは，^{99m}Tc-EHDP のそれと比べ，速い結果を得た．3. 骨シンチグラム像は，本剤と ^{99m}Tc-EHDP との間で，明らかな優劣を認めなかった．4. しかし，本剤は，^{99m}Tc-EHDP と比べ，腎描画が淡い傾向を認めた．5. この傾向ならびに血中クリアランスの速さからみて，本剤は，^{99m}Tc-EHDP と比べ，静注後早期より骨シンチグラフィーが可能であると思われた．

Presented by Medical*Online